

仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

(第3四半期)

仁淀川地域アクションプランの進捗状況等

H27. 2. 10

仁淀川地域本部

1 地域アクションプランの平成26年度（第3四半期）の進捗状況等（総括）

(1) 総評

全37のプランについて、実行支援チームを編成、事業推進に向けた協議と進捗管理を実施し、それぞれの地域アクションプランに掲げた本年度到達点の達成を目指して取り組みを進めている。

事業のさらなるステップアップや課題を抱えている案件について、人材育成の講座への誘導、アドバイザーの派遣、各種補助金の活用など、場面に応じた支援事業を導入し、関係機関と連携した具体のサポートを実施している。

特に、昨年11月に産振総合補助金を活用してリニューアルオープンした日高村の直販所「村の駅ひだか」については、開店以降集客、売上ともに好調な滑り出しで、集荷体制の整備、商品の品揃えや加工品の開発など、売上目標の達成を目指した取り組みを進めている。

農事組合法人ヒューマンライフ土佐の薬用作物栽培の事業では、県内での産地拡大や設備整備に向けて、事業主体、越知町や農業振興部が連携した取り組みを進めている。

今年度、新たに地域アクションプランの位置付けを行った、いの町の生姜等加工品製造施設整備事業については、産振総合補助金事業審査会において承認されたことから、今後、事業実施計画に基づき設備整備に取り組んでいく。

また、平成22年度に設立し、旅行会社によるツアーの実績を大幅に伸ばしてきた仁淀川地域観光協議会の取り組みは、今年度も順調に入込客数を増やしており、引き続き、仁淀川地域の観光資源の掘り起こしを図り、県の観光施策とも連携してセールス活動を進めるとともに、今後の広域観光組織の機能強化を目指し、会員市町村や観光協会、県など関係者のサポートのもとで3ヶ年計画の策定に取り組むこととしている。

(2) 具体的な動き

① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
地域の特色を活かした多様な農業の展開 ■No.3 薬用作物の産地拡大による所得の向上 (仁淀川町、佐川町、越知町、日高村) 《事業主体》 ・農事組合法人ヒューマンライフ土佐	[目標 (H27)] ミマサイコ作付面積：70ha カンショ作付面積：80ha ダイダイ作付面積：30ha [H26 到達点] ミマサイコ作付面積：60ha カンショ作付面積：80ha ダイダイ作付面積：30ha [H25 到達点] ミマサイコ作付面積：52ha → 実績 52.1ha カンショ作付面積：65ha → 実績 50.8ha ダイダイ作付面積：23ha → 実績 25.3ha

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンライフ土佐の通常総会開催(6/10)に向け、産振アドバイザー制度を活用して、財務諸表の分析、課題の抽出や総会資料作成を支援 ・越知町長の(株)ツムラ訪問に同行し、ヒューマンライフ土佐との関係強化や薬用作物の栽培促進について協議(5/22) ・(株)ツムラを訪問し、今後の設備整備について協議(8/8) ・ミシマサイコ H25 年度実証圃成績の生産者への周知(1回) ・ミシマサイコの実証圃での生育調査(継続、3ヶ所で実施) 実証内容：堆肥施用による収量への影響(2ヶ所) ショウガとの輪作による収量への影響(1ヶ所) (実証箇所数は、上記3ヶ所+被覆資材を用いた発芽促進(1ヶ所)の計4ヶ所) ・ミシマサイコ発芽状況・根収穫・根褐変萎凋症状実態調査 ・(株)ツムラとの情報交換会の開催(環境農業推進課、中央西農業振興センター) ・薬用作物現地検討会の開催(6/23、6/24、7/3、7/4 生産者、(株)ツムラ、ヒューマンライフ土佐、農業振興センター) ・(株)ツムラ、ヒューマンライフ土佐、越知町の良好な関係を維持するため、ツムラのCSR活動の企画・実施に参加 ・生育状況及び栽培管理の聞き取り調査(6/23(越知町)、6/24(大豊町、本山町)、7/4(宿毛市、大月町)) ・(株)ツムラ、ヒューマンライフ土佐、越知町の協議の場に農業振興部とともに出席(10/2)。新加工場の整備等について(株)ツムラから提案があり、支援メニューの導入を検討中 ・こうち農業確立総合支援事業の活用により新たな設備導入を行うため、産振アドバイザー制度を活用して事業計画策定を行った。 ・組織体制を農業生産法人に変更する方向での協議がスタート <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬用作物の産地の育成 ⇒生産状況等の聞き取り調査 ⇒現地巡回、現地検討会による生産者指導と生産者拡大のための取組の周知 ・安定生産技術の確立 産地・生産者間の収量格差、発芽率が低いことによる欠株原因・栽培技術に関する知識の不足。特に新規産地では収量が低い傾向 ⇒農業振興センター・山間試験室での実証試験 ・越知町、農業振興センターと連携した支援メニューの導入、(株)ツムラとの関係強化、ヒューマンライフ土佐の体制強化

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 4 力強い高糖度トマト産地の確立 (仁淀川町、佐川町、日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A コスモス ・ J A コスモストマト生産部会 	<p>⇒産振アドバイザー事業を導入し、財務状況の把握、設備投資の可否、体制強化の検討</p> <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売高：5.1 億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売高：4.3 億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売高：4.5 億円 → 実績 3.9 億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営改善、経営目標の策定指導 (個別カウンセリングの実施、個別経営目標の作成支援) ・ 新規就農者の営農定着支援 ・ 栽培技術の向上及び病虫害防除の徹底 (促成トマト・夏秋トマト栽培指導) ・ 8月の台風12号、11号により浸水被災したJAコスモス日高集出荷場の機械設備について、「攻めの農業実践緊急対策事業」を活用した整備が完成し、12/3～稼働。トマト選果ラインの高度化 (軟化果実・芯腐れ果実の選別) が図られた。(事業費約2億6千万円) ・ 夏秋トマト出荷量:83t (集計期間:5/19～10/31 前年同期比:116%) ・ 促成トマト出荷量:72t (集計期間:10/1～12/15 前年同期比:134%) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産地コンセプトを理解し、実践できる農業者の育成 ・ 他産地商品との差別化した販売戦略の展開 (夏秋トマトの規格外品「ふぞろいトマト」の系統販売)
<p>「森の工場」などによる木材の増産体制の確立</p> <p>■No. 13 仁淀川流域における木材産業の振興 (仁淀川地域全域)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林組合 ・ 林業事業体 ・ 素材生産業者 ・ 製材業者等 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>素材生産量：6.3 万㎡</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>素材生産量：6.0 万㎡</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>素材生産量：5.5 万㎡ → 実績 5.9 万㎡</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木材増産推進ワーキンググループ (林業事務所内に新設) による管内24事業体への聞き取り調査実施

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業説明会を開催し、新たな補助事業等の周知を徹底 ・仁淀川森林組合製材工場の完成に向けた支援 (6/9 完成) ・森の工場新規認定 1 団地。既設森の工場 9 団地の事業計画ヒアリング (6 月) ・森林経営計画作成指導 (4～9 月：7 事業体) を行い、3 事業体 (124ha) が新規認定された。 ・韓国建設企業団の産地商談会のサポート (4/17、5/27、7/3)。住宅用構造材及び内装材 1 棟分 (ソウル市) を受注 (6 月) →住宅用構造材 1 棟分を高知新港より輸出 (8/14)。現在、新たに 1 棟を受注見込み。 ・仁淀川町産木材や土佐漆喰等、県内の建築資材を使ったデザイン建築物の開発・販売促進の取組について、農商工連携基金助成事業の活用に向けた企業への支援を行い、採択となった (9/29)。 ・増産及び安定経営に向けた森林組合との定期協議 (7/11、10/8) ・管内市町村の情報 (意見) 交換会 (8/26) ・佐川町自伐型林業推進準備会への参加 (8/5、9/2、10/30) ・人材育成 (技術力向上) 支援のため視察研修を開催 (7/29 香美森林組合：2 森林組合作業員 13 名、9/17 とされいほく：2 森林組合作業員 4 名、4 事業体 13 名) ・次年度補助事業に向けた事業体との協議 (10 月～) ・木質バイオマス勉強会の開催 (11/27 市町村等 27 名) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増産に向けた体制づくり ⇒林業事業体の増産能力、体制づくりの具体的な進捗状況や課題を把握するなど、事業体等との情報共有を図りながら、技術力向上を始めとする人材育成支援や、関係事業体が連携した施業体制づくり支援の強化等の取組を進める。 ・韓国での高知県産木材による住宅建築の拡大 ⇒産地商談会への同行支援など県の信用力を活用した取組を進める。
<p>「宇佐のうるめ」の消費拡大 ■No. 15 うるめのブランド化 (土佐市)</p> <p>《事業主体》 ・企業組合宇佐もん工房</p>	<p>[目標 (H27)] うるめ商品の販売額：1 億円</p> <p>[H26 到達点] うるめ商品の販売額：6,500 万円</p> <p>[H25 到達点] うるめ商品の販売額：5,000 万円 → 実績 5,109 万円</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度の売上：51,094千円（前年比140%） ・H26年度の売上（12月末）：48,204千円（前年比128.4%） ・土佐市内の飲食店が参加し、うるめを活用したメニューを提供する「一本釣りうるめ祭り」を開催（4月） ・各種イベント、商談会へ参加 ・観光振興部と地域本部が進める「食の旅行商品化」事業にアドバイザーを導入してWGを開催し、新商品開発に向けた協議と試作品づくりを実施 （7/17, 8/26, 9/18, 11/6, 11/20, 12/10） ・宇佐もん工房、土佐市、中央漁業指導所、地域本部で一本釣りうるめいわし漁師など漁業者の育成・確保等について協議（9/29, 12/5） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26年度売上目標6,500万円の達成に向けて、さらなる販路拡大が課題 ⇒積極的に見本市等に出展を行うとともに、新商品開発等に取り組み、販路拡大を目指す。 ・売上の増加に伴い原材料であるうるめの確保が必要 ⇒漁業者との良好な関係を継続し、増産に対応する。また、漁業者の後継者確保に取り組む。 ⇒中央漁業指導所と一本釣りの仕掛けを噛み切るフグ対策に取り組む。
<p>「土佐和紙」の販売の促進</p> <p>■No.16「土佐和紙」の販売促進と保存・継承 （土佐市、いの町）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙協同組合 ・高知県製紙工業会 ・いの町商工会 ・i-nos.net 他 	<p>[目標（H27）]</p> <p>土佐和紙の販売額：6.6億円（現状の確保）</p> <p>[H26到達点]</p> <p>土佐和紙の販売額：6.6億円（現状の確保）</p> <p>[H25到達点]</p> <p>土佐和紙の販売額：6.6億円 → 実績5.9億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙職人の販路拡大を支援（伝統的工芸品等支援事業が採択される8/1） ・いの町、紙の博物館、手すき和紙協同組合、製紙工業会、工業振興課、高知家プロモーション推進室、地域本部で土佐和紙のプロモーション、販路拡大等に関する協議を実施（8/12, 10/20） ・「高知国際版画トリエンナーレ展（10/11～11/30 来場者数：7,985人（前回比：106.9%）」及び関連イベントの「土佐和紙職人市（トリエンナーレ展会期中の土日祝日 出展

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>者数：10社(延べ33社)、売上：約278千円)やいの町商工会が策定した中心市街地活性化プランと連携した「紙のまち博覧会(10/11～12/14 イベント数：13本、来場者数：延べ7,462人)」を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トリエンナーレ展は目標1万人は達成できなかったものの、関連イベントの開催など商工会や観光協会との連携により前回は上回る集客があった。協力体制が築けたことで紙の博物館と商店街を結ぶ一体的な取り組みの必要性や方向が見えてきた。 ・土佐和紙職人市は出展者、来館者ともに好評であった。事業者が消費者と直接触れ合い、消費者ニーズを把握する良い機会となり、事業者の商品づくりや接客等に対する意欲向上につながった。 ・「高知家統一セールスキャンペーン」(H26年度重点プロモーション品目「土佐和紙」)のプロモーション事業と連携 <ul style="list-style-type: none"> ※「ものづくり総合技術展(11/20～22)」における「2014土佐和紙商談会 in 高知」を開催 <ul style="list-style-type: none"> 参加企業：(株)東京鳩居堂、伊東屋、アイズカンパニー、デザイナー2名、東京都美術館学芸員(計6社) 参加県内事業者数：8社(土佐市・いの町) 商談結果：試作依頼5件、見積依頼3件 ※美術芸術関係誌への掲載、首都圏メディアへの情報配信、まるごと高知での版画展示などを実施 ・紙の博物館リニューアル準備会の開催 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すき和紙職人の高齢化が進み、販路拡大のための営業活動が不十分となっている。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒手すき和紙協同組合等と連携し、首都圏の美術大学や高級雑貨店等をターゲットに、版画・日本画の用紙や文房具等としてPRやセールス活動を行う。 ⇒アドバイザーを導入し、現状の手すき和紙の流通の仕組みを把握、新たに販売戦略を検討する。 ⇒土佐和紙の知名度アップ及び産地をPRするイベント・企画展の開催を検討する。 ・H27年に30周年を迎える紙の博物館の記念事業を契機とした館への集客と土佐和紙商品の販路拡大の取組強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒紙の博物館(展示物、販売コーナーなど)の魅力ある施設づくりを検討

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>仁淀川流域の広域観光の推進</p> <p>■No. 26「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進（仁淀川地域全域）</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仁淀川地域観光協議会 ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村 ・いの町観光協会 ・越知町観光協会 ・さかわ観光協会 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：730人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：56,000人 主要観光施設の入込数：140,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：3,500人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：54,000人 主要観光施設の入込数：138,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数：2,500人→実績 3,660人 公共関連宿泊施設での宿泊者数：54,000人→実績 46,703人 主要観光施設の入込数：138,000人→実績 138,021人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26. 4/1～12/31の仁淀川地域観光協議会関連のツアー客数が3,408人（前年比112%）と引き続き数字を伸ばしている。 ・協議会主催の観光物産PR（岡山市「京橋朝市」に出展10/5） ・「仁淀川ひな回廊（H27. 2月中旬～3月中旬）」の実施に向け準備中 ・ホームページ（7/15リニューアル）やツイッター等のインターネットツール、デジタルサイネージ（電子版サイン ※JR松山駅・JR高松駅・エミフルMASAKIにて写真家高橋宣之氏の動画放映）、パンフレット・マップ（個人・エージェント向け）による情報発信を実施 ・仁淀川地域観光協議会の直面している課題や今後の展開、広域観光組織の機能強化に向けた地域観光課との意見交換会を開催（9/17） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版ふるさと雇用事業を活用しているが、現行のプロパー職員の体制を維持するためのH27年度からの財源確保が課題 ⇒現在、観光振興部にて、広域観光協議会に向けた新たな補助事業を策定中 ・ツアーの造成が進むことによって、オペレーション業務、現地でのアテンドや営業に向ける仁淀川地域観光協議会の人役が不足してきており、新規の旅行会社の開拓、ツアーの造成が困難になってきている。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>⇒H26.12月臨時総会にて、H27に企画員を1名増とする予算案が承認</p> <p>⇒広域観光組織の機能強化に向けた3ヶ年計画をH26年度中に策定予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツアーの造成数は順調に推移しているが、長期的に安定して誘客を行うためには、常に旅行会社やお客様に注目してもらえる楽しみ方の提案が欠かせない。 ・モニターツアーにおけるアンケートを活用し、観光客のニーズを的確に把握・分析する必要がある。 <p>⇒研修会等を通じて市町村や観光施設の担当者の意識の醸成を図る。また、定例の担当者会で素材の持ち寄りを行う。※「観光担当者研修会」(H27.2.19)開催予定</p>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.11 本川きじの販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品開発 (いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本川きじ生産組合 ・庭先農家 ・いの町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,800羽</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,800羽</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>本川きじの生産羽数：6,375羽 → 実績 4,365羽</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試作品開発、商談会出展、市場開拓調査、販売戦略策定に取り組むため、高知県中小企業団体中央会の「連携組織活性化支援事業(経営革新支援)」に申請し、交付決定される(H26.10.29)。 ・本川きじ生産組合の法人化に向けた協議を重ね、「本川手箱きじ生産企業組合」を設立(H26.12.5) ・法人化の第1弾企画として「きじ重」のお披露目会(27.1.20)を開催 ・新商品「きじ重」の販売に向けて準備中。委託販売先として、道の駅「木の香」に加え、「ドラゴン広場」、「村の駅ひだか」が決定している。 ・貯卵庫、脱毛器、液体型急速冷凍機などの生産設備の整備を町単独事業で実施(施設は町有。H26.10月着工し、現在、施設を改修中)

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 17 集客施設を核にした高岡地区の活性化(土佐市)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・土佐市商店街活性化推進協議会等</p>	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上を伸ばすための新たな販路の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ⇒法人化に向けた経営計画の策定の中で、販売戦略を構築中(H27.3月初旬をめどに策定予定) ⇒東京都近郊の量販店、ホテル、飲食店バイヤー等への市場調査をH27.2月実施予定 ⇒販売ツール(商品チラシ・パッケージ等)をH27.2月中に制作予定 ・安定した生産体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ⇒昨年の夏期の暑さによるダメージを踏まえ、孵卵率・飼育状況の把握と改善のため、中央家畜保健衛生所と連携して指導を行う。 <p>[目標(H27)]</p> <p>施設直販市での販売額：79,000千円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>施設直販市での販売額：62,000千円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>直販市の売上：62,000千円 → 実績42,581千円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐市、商工会、JA、地域本部のメンバーでドラゴン広場運営協議会(チームドラゴン会)を立ち上げ、運営改善に向けた協議を継続して実施 ・6月から産振アドバイザーを導入し、施設の管理、運営方法の改善に向けて助言を受けた(6~10月) ・魅せる直販所アドバイザー事業(地域農業推進課)を活用し、POP作成の研修を実施(H26.12.22)、次回(2月初旬)はその効果について検証する予定 ・来場者数:H26年度(4~12月)79,234人(前年比93.0%) ・直販市の売上:H26年度(4~12月)34,090千円(前年比98.7%) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラゴン広場は、地域の産品販売、観光情報発信、地域住民のコミュニティーの場といった役割を果たしているが、集客のための仕掛けづくりや、安定した施設運営のノウハウ獲得が課題 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ドラゴン広場運営協議会(チームドラゴン会)を定期的で開催して、集客と売上増の検討と実践を続ける。 ⇒魅力ある直販所とするため、レジ・陳列等の売り場全体のレイアウトを変更(7/16)。今後、POPやのぼり旗等でさらに魅力ある売り場づくりを行う予定。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 18 いの町商店街(仁淀川七色商店街)の 活性化(いの町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いの町 ・いの町商工会 	<p>⇒直販所の商品、出荷者を増やすため、集荷の仕組みづくりや出展者募集チラシを作成し、生産者等へ出展を呼び掛けた(8~9月)。今後も継続して取り組む。</p> <p>⇒JA とさし女性部や他のグループと連携し、惣菜・弁当などの加工品づくり及び販売に向け協議中。</p> <p>⇒観光客等の満足度を高め、売上増につなげるため、仁淀川流域の産品等による「お土産コーナー」の設置を決定し、現在準備中。</p> <p>⇒イベント企画・開催によって集客を進めるとともに、今後も課題等に応じ、積極的に産振アドバイザー制度を活用して、店舗の魅力づくりや情報発信を行う。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>いの町商店街の空き店舗率：20%未満(H23 25.3%)</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>いの町商店街の空き店舗率：21%未満</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>いの町商店街の空き店舗率：21%未満 → 実績 21%</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、日本商工会議所の小規模事業者地域力活用新事業全国展開事業の実践の年であり、いの町中心市街地の再生に向け策定したプランをもとに取り組みを進める。 ・商工会、観光協会、紙の博物館、手すき職人、製紙会社、生産農家、飲食店等の実践者による協議を経て、「紙」、「職人」、「食」、「仁淀川」の4つをテーマにそれぞれの部会で商品開発やイベント企画を行い、「紙のまち博覧会」 (H26.10/11~12/14 イベント数：13本、来場者数：延べ7,462人)を開催 ・いの町商店街を含む町内の飲食店(17店舗)が共通ルール(いの町産生姜を使用する、生姜を焼く、おもてなしをする)に基づいた生姜料理を提供する「~いの生姜やき~なないろ生姜焼き街道スタンプラリー」を実施(11/22~12/20 ※来客者数：約950人、売上：約1,500千円) この取り組みが飲食店のやる気を引き出し、今後も同時期に継続して開催することが決定した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国展開事業の最終(27)年度となるプランの実践に当たっては、プレーヤーとなる事業者や住民の参加が重要となる。 ⇒中心市街地の活性化の実現のため、「紙のまち博覧会」を検証し、土佐和紙のPRと絡めたイベント・企画展の

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 19 地域産品を活用した冷菓等の製造販売 (いの町)</p> <p>《事業主体》 ・(有)高知アイス</p>	<p>開催を検討する。 ⇒紙の博物館の30周年記念事業と連携し、商店街への誘客につなげるよう相互の協力体制の強化を図る。</p> <p>[目標 (H27)] 冷菓等の販売額：4.37 億円</p> <p>[H26 到達点] 冷菓等の販売額：4.31 億円</p> <p>[H25 到達点] 冷菓等の販売額：4.12 億円→実績 3.92 億円</p> <p>[取組状況] <ul style="list-style-type: none"> ・直営売店での H25 年度売上 12,238 千円 (前年比 312%) ・販路拡大を目指し、海外 (シンガポール、香港、アメリカ、マレーシア) の商談会等に積極的に参加 ・取得したハラール認証を生かしてマレーシアでの販路拡大の取組を実施 ・ジャパソハラールエキスポ (H26.11/26~27) への出展を通して国内での取引先が増 (5 社)。シンガポールの問屋からのオファーもあり交渉を継続していく。 ・売店のリニューアルオープン (H27.3 月予定) に向けて、店長候補を募集中 </p> <p>[課題と今後の対応] <ul style="list-style-type: none"> ・海外での販路開拓やハラール認証を生かした需要拡大に対応した生産設備の整備 ⇒冷凍保管庫を工場敷地内へ設置し、ストック容量の増と出荷作業の効率化、コスト削減を図る。(※) ・新たな海外販路の開拓 ⇒中東ドバイでの商談会に参加 (※) ・冷菓等はシーズン商品のため、四季を問わず販売できるスイーツ等の販路拡大 ⇒新商品のパッケージと持ち帰り商品用手提げ袋のデザイン制作 (※) ⇒新商品「いもパ (冷凍大学芋)」の販売戦略を検討 ・工場視察、直営売店への来客者の増加に伴い、既存施設では来客者の満足度を十分満たすことができなくなっている。 ⇒売店の飲食スペース及び物販コーナーの増築 (※) ⇒工場視察用の窓の設置 (※) (※) 産振総合補助金を活用して実施 (10/9 いの町交付決定、各種工事の入札は終了し、H27.1~2 月に施工予定) </p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20(榊フードプランを中心とした農山村6次産業化の推進(仁淀川町))</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・榊フードプラン ・仁淀川町 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：4.0億円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額：5.2億円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：4.9億円 → 実績 4.8億円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップ事業(6/13交付決定)の活用により、経営分析、経営計画づくりに取り組んでいる。(第1回協議7/23、経営分析のための基本調査・データ分析7~8月、経営分析中間報告9/30、工場改築に係る課題の検討及び工場視察11/14) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現施設での生産能力が限界に達しており、需要に対する対応が不十分。経営計画に基づく会社運営がなされておらず、人材育成、組織体制の弱さも課題 ⇒経営コンサルタントの参画による経営方針、経営計画の策定を行い、経営の改善と設備投資に向けた財務環境の整備に取り組む。 ⇒農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用した施設整備のため、仁淀川町が活性化計画策定を進めている。
<p>■No. 21 売れる商品づくりによる地産外商の推進(佐川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町 ・JAコスモス ・佐川町商工会 ・企画本舗さかわ屋 ・地元酒造会社 ・地元乳業者 ・地元加工業者 ・黒岩じるし ・地元酪農家 など 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>生乳出荷量：480t</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>生乳出荷量：380t</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>生乳出荷量：270t → 実績 326t</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地乳プロジェクト会を定期開催し、新商品開発や販売促進の取り組み等を検討している。また、これまで課題だった地乳の商標管理のため9月11日に地乳商品認定要綱を策定し、25品目の商品を「ぢぢちブランド」に認定した。 ・地元農産物を使用した加工品の開発等の検討 ・地元事業者が「佐川ものづくり支援事業補助金」や「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」を活用し、地乳や農産物等を使用した新商品(地乳アイス新製品、ニラ佃煮、紅茶を使った焼菓子等)の開発を進めている。その中で、企画本舗さかわ屋が、さかわの地乳認定商品に貼付するシールや販促資材を作成した。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 24 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <p>・(株)エスエス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元乳業者が「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」の活用により、牛乳の安定的な製造のための設備整備を昨年9月に行った。 ・乳業者を中心とした酪農家との関係強化や生産基盤の強化を進めるため、4軒の酪農家を訪問し、今後の取り組みへの意向確認等を行った。(12/1、2) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高を伸ばすために地乳のブランド力を高めることが必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒乳業者を中心とした酪農家との関係強化や生産基盤の強化に取り組む。 ・地乳を使った新たな商品開発や、地乳に対する消費者の認知度を再び上げることが必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒企画本舗さかわ屋から各事業者へ配付された「さかわの地乳認定シール」の活用や、販促イベントでの販促資材の活用等により、地乳の認知度向上に取り組む。 ⇒佐川町や佐川町商工会、事業者等と連携し、地乳プロジェクト会等において新商品開発の検討を進める。 ⇒さかわの地乳をテーマにした販促イベントの企画を行う。 <p>[目標 (H27)]</p> <p>販売額：9,000 万円</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>販売額：4,000 万円</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>販売額：4,000 万円 → 実績 2,226 万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日産 400 ケースを目指した生産体制の調整 ・OEM 先と連携した販路の拡大 ・OEM 先であるアース・バイオケミカル(株)から要望のあった原料・製品をストックする倉庫を、工場に隣接した場所に日高村が確保 (H26. 6 月から供用開始) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OEM 先の販促による製品の売上向上や製造コスト削減の取り組みが重要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒OEM 先の情報を得ながら、フル操業に向けた協議を進める。 ⇒現在、日産 320 ケース前後を供給している状況。今後も、海外への輸出拡大を含む OEM 先の販売促進の取り組みに合わせ、安定的な製造に取り組む。

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 25 直販市の機能強化(生産・出荷の拡大及び観光情報発信等)による地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日高村 	<p>⇒原材料(おがこ)の生産量の減や利用者の増により材料の調達が不安定となっているため、新たな供給先を検討中である。</p> <p>[目標(H27)]</p> <p>施設での販売額等：103,200千円</p> <p>[H26到達点]</p> <p>施設での販売額等：65,170千円</p> <p>[H25到達点]</p> <p>体験型観光入込客数：15,700人 → 実績12,500人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザー制度で派遣したアドバイザーを村単独事業で確保し、運営体制の整備、PRやイメージ戦略の策定等、リニューアルオープンに向け準備を進めてきた。 ・仮店舗での営業開始(H26.5/29～) ・出荷部会設立(H26.6月) ・公募により「駅長(支配人)」を採用(H26.7月) ・運営組織となる「株式会社村の駅ひだか」設立(H26.7/10) ・7月から産振アドバイザーを導入し、直販所に隣接する農産物加工施設の改修計画及びH26.11月から販売する特産品(トマトスープ3種、ソフトクリーム3種、乾燥野菜、鶏のから揚げトマトピューレ添え、芋スティック、お茶のスムージー、イタドリおにぎり、トマトようかん)が完成した。 ・産振総合補助金を活用した直販所「さんさん市(新名称：村の駅ひだか)」がH27.11.16にリニューアルオープン(11.1～プレオープン)し、新たな施設はこれまでの直販所の機能のほか、新たに観光情報発信コーナー、喫茶店、イーオンコーナーを備えている。 <p>来場者数(レジ通過人数)：H26.11～12月30,309人</p> <p>直販市の売上：H26.11～12月29,283千円</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の品揃えと販売の仕組みの磨き上げ <p>⇒売上、来客数、売上ランキング、イベントなどを分析して品揃えを決定</p> <p>⇒商品確保に向けた生産者への周知、出荷者の増、集荷体制の整備を進める。</p> <p>⇒特色ある商品づくりやお客様がわざわざ来店する魅力的な加工品の開発や生活改善グループの高齢化に伴う日高みそ・のし餅等の特産品づくりの後継者育成に取り組む。</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 33 歴史的風致維持向上計画の推進(佐川町)</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町 ・さかわ観光協会 ・佐川町内の地域づくり関連団体 	<p>[目標 (H27)]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人</p> <p>[H26 到達点]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人</p> <p>[H25 到達点]</p> <p>歴史的風致地区への入込客数：10,000人 → 実績 9,699人</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町歴史的風致維持向上計画がH30年度までの5年間延長となり、竹村家分家旧竹村呉服店の修復・保存事業や、司牡丹酒造(株)1号蔵他酒蔵群修復・保存事業が新規メニューとして追加された。 ・まち歩き観光ガイド(NPO法人 佐川くろがねの会)利用者数が大幅に増加(H24年度：1,339人→H25年度：2,986人→H26年度4～12月：3,741人) ・多くの観光客をご案内しているNPO法人 佐川くろがねの会が、産振アドバイザー制度を活用して観光ガイド養成研修を実施し、ガイドの増員やガイド台本基本編2種(携帯版、詳細版)の作成等、くろがねの会の基盤強化につながった。 ・佐川町観光振興を推進するために必要となっている関係機関の役割分担や連携等を進めるため、産振アドバイザー事業を活用して、さかわ観光協会及び佐川町役場の研修を実施した。(観光協会9/8、29、10/27)(佐川町役場10/4) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さかわ観光協会を中心とした佐川町の物産販売や情報発信、地域発の観光メニューづくりの強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒浜口邸での物産販売、観光情報発信機能の整備 ⇒住民参加による牧野公園植栽計画の推進 ⇒さかわ観光協会が中心となって、佐川くろがねの会との連携により、歴史的町並みを活用した体験観光づくりを進める。 ⇒佐川町上町地区でのにぎわいを、町内に広げるための戦略づくり ・佐川町の観光振興に向けた関係機関の役割分担と機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒産振アドバイザー制度の活用による、佐川町のリーダーシップ、さかわ観光協会のおもてなしの質の向上
<p>■No. 34 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進(越知町)</p>	<p>[目標 (H27)]</p> <p>施設での販売額：6,000万円</p> <p>体験メニューの造成：6メニュー</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おち駅運営協議会 ・越知町観光協会 ・JAコスモス ・越知町 など 	<p>案内人養成数：6人 ラフティングインストラクター数：8人</p> <p>[H26 到達点] 施設での販売額：6,300万円</p> <p>[H25 到達点] 施設での販売額：6,000万円 → 実績 6,278万円</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おち駅物販経営協議会（毎月1回開催）による販売体制の強化に向けた協議 ・カヌー、ラフティング救命救急講習5名（4/12） ・カヌー、ラフティングインストラクター養成講座7名（7/1、2） ・カヌー、ラフティングの利用者（H24年度：カヌー282人、ラフティング530人→H25年度：カヌー840人、ラフティング998人→H26年度4月～10月：カヌー439人、ラフティング711人） <p>※台風12号、11号等夏場の天候不順が影響し、カヌー・ラフティングの利用者は前年比63%と大幅にダウン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザー制度を活用した情報発信力向上講座（Facebookを活用した情報発信）の開催5名（6/2、25） ・横倉山案内人養成講座の開催20名（6/26、7/15、8/19、9/17、10/22、11/19、12/16） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒おち駅物販経営協議会において月次単位で販売動向の分析等を行い、販売現場の状況を反映したタイムリーな売上向上に取り組む。 ⇒産振アドバイザーの指導を活かし、POSシステムデータを活用した商品別・生産者別の売り上げ状況の分析や出荷者へのフィードバックの取り組みを進める。併せて、POPの活用や商品の並べ方等による客単価の向上など、顧客目線のサービス提供に取り組む。 ⇒年間の売上状況を出荷者に提供することで計画的な栽培・出荷を促進していく。 ⇒会員の加入促進により商品の確保に取り組む。 ⇒近隣市町村の直販所オープンに伴う影響への対策について、関係者で検討を進める。 ・体験観光メニューの充実等 <ul style="list-style-type: none"> ⇒横倉山案内人養成講座を開催することにより、地域資源を活かした体験型観光のメニューを充実させる。 ⇒カヌー、ラフティングの基地整備に向けて適地調査、基本構想策定を実施中

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 35 屋形船を活用した拠点施設の整備による交流人口の増と地域の活性化(日高村)</p> <p>《事業主体》 ・日高村</p>	<p>[目標 (H27)] 体験型観光入込客数：23,500 人</p> <p>[H26 到達点] 体験型観光入込客数：16,200 人</p> <p>[H25 到達点] 体験型観光入込客数：15,700 人 → 実績 12,500 人</p> <p>[取組状況] ・現在 3 隻運航を行っているが、仁淀川漁協総会にて 5 隻運航が承認され、船舶確保等の準備中 ・乗船者数：H24 年度 1,785 人 (5/6～)、H25 年度 3,277 人、H26 年度 (4～12 月) 3,037 人 (前年同期比：98.3%) ※台風 12 号、11 号の影響により 8 月の乗船者数は大幅に減少 (8/24 まで運休、予約キャンセル 286 人) ・仁淀川地域観光協議会による旅行会社へのセールス ・発着場に近接した河原への遊歩道整備工事 (村単独事業) を発注 (H27. 3. 20 完成予定) ・屋形船の発着場敷地内への公衆トイレ整備工事 (村単独事業) が完了</p> <p>[課題と今後の対応] ・観光の視点だけでなく、地域コミュニティの場づくりを含めた拠点施設の整備が必要 ⇒役場内でのプロジェクト会議での検討や、地域住民との合意形成による施設整備を進める。 ・ツアー客に対応できる集客力の向上と情報発信 ⇒5 隻 (うち予備 1 隻) 運航での利用人員の増 ⇒冬期の利用客増に向けた対策を検討する。 ⇒他の観光資源と連携したパッケージでのセールスやイベントの開催 ⇒村内の観光資源 PR のためのツールの作成や「村の駅ひだか」での情報発信 ⇒屋形船のホームページやブログを再構築して情報発信の強化を検討する。</p>
<p>■No. 37 生姜等加工品製造施設整備事業(いの町)</p> <p>《事業主体》 西村青果㈱</p>	<p>[目標 (H27)] 生姜等加工品の販売額：276 百万円</p> <p>[取組状況] ・仁淀川地域本部会議 (9/1) 及び仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議 (9/3) を経て、産業振興計画フォローアップ委員会 (9/12) において地域アクションプランへの位置づけについて承認される。</p>

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・産振総合補助金事業採択申請にかかる事前ヒアリング (西村青果、町、計画推進課、地域本部) (10/28) ・産振総合補助金事業採択申請書類の提出 (11/19) ・産振総合補助金事業審査会 (12/19) において承認、事業採択 (1/7) された。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工期、完成期限を踏まえた工程管理を行う。

2 平成 26 年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況 (交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 20(粥)フードプランを中心とした農山村 6次産業化の推進 (仁淀川町) ※交付決定 6/13</p>	<p>仁淀川町のカット野菜事業については、カット野菜の需要の増加により現施設での生産能力が限界に達し、受注できない状況が生じている。この課題解決のため、施設整備に向けた事業計画書の作成や投資可能な財務環境づくりを目指して専門家に経営分析等を委託し、指導・助言を得ることにより、課題を明確にし、その解決を図る。</p>	<p>3,527 (1,633)</p>
<p>■No. 19 地域産品を活用した冷蔵等の製造販売 (いの町) ※交付決定 10/8</p>	<p>販路拡大に向けた冷凍庫等の生産設備の整備や海外の商談会に出展するとともに、ツアー客など観光客の満足度の向上のため、売店及び工場施設を観光拠点施設として整備することで、新たな雇用の創出や地域産品(原材料)を供給する生産者の所得向上につなげる。</p>	<p>39,373 (18,208)</p>
<p>■No. 37 生姜等加工品製造施設整備事業 (いの町) ※採択通知 1/7</p>	<p>生姜・ユズ皮の保冷施設及び生姜の塩蔵タンクの新設により、生姜等の増産及び加工品の生産性を図り、顧客からの受注に対応できる安定的な生産体制を確立することで、いの町内の生姜生産者等の所得向上及び、地域の雇用拡大につなげる。</p>	<p>140,120 (50,000)</p>

3 県民参画に向けた取組

- ・いの町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/20)
- ・日高村商工会総会で土佐MBAの紹介(5/21)
- ・土佐市商工会総会、越知町商工会総会で土佐MBAの紹介(5/23)
- ・いの町観光協会総会で県の観光動向、仁淀川流域への入込等について説明(5/26)
- ・いの町商工会賀詞交換会で地域アクションプランの事例紹介(1/9)
- ・商品開発や経営改善を目指す事業者等への土佐MBAの紹介(4件)

4 相談案件：16件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/9	建築・木材販売加工	仁淀川町産木材や土佐漆喰等、県内の建築資材を使ったデザイン住宅の開発及び販売促進
2	5/28	農産物等販売	農産物直販所の拡充整備
3	6/3	食品加工	ケールの生産者確保及び乾燥機器の導入
4	6/6	食品加工	ブラックベリーの加工・販売体制の確立
5	6/18	食品加工	お茶のスイーツの加工施設や経営体制の充実強化
6	6/24	食品加工	生姜加工施設の建設
7	6/26	食品加工	カット野菜の洗浄施設の整備
8	7/9	畳縁加工販売	畳縁を使った製品の販売促進
9	7/15	食品加工	ブルーベリーを活用した菓子の製造開発
10	8/21	水産加工	水産加工品の流通・販売促進
11	9/24	農業	パプリカ生産拡大による新規就農者育成
12	9/26	水産	天然アサリ再生にかかる垂下式養殖の事業化
13	10/23	水産加工	水産一次処理加工場の建設
14	10/24	紙製品販売	農産物・加工品等の和紙包装資材の販売促進
15	12/24	農産物販売	ミネラルメロンの知名度向上及び販売促進
16	1/5	食品加工	和ハーブ等地域農産物を活用した商品の開発販売

